

2023年5月31日

近畿労働金庫
理事長 江川 光一 様

「2022年度近畿ろうきんNPOアワード」選考結果報告書

2022年度近畿ろうきんNPOアワード審査委員会
審査委員長 阿部 匡伴

「2022年度近畿ろうきんNPOアワード」審査委員会の選考結果について、以下のとおり報告いたします。

1. 審査について

2022年12月1日から2023年1月31日までに応募があった54団体の応募書類をもとに、各審査委員が事前審査を行い、4月14日に開催した審査委員会において各受賞団体を選考しました。

選考の結果、審査委員会にて、大賞を1団体、優秀賞を2団体、奨励賞を4団体、はぐくみ賞を3団体とすることを確認しました。審査委員は下記、記載のとおりです。

【審査委員】（敬称略）

- 審査委員長 阿部 匡伴 （近畿労働金庫 近畿推進会議 議長）
- 審査委員 山縣 文治 （関西大学 人間健康学部 教授）
- 岡田 智恵 （公益財団法人 コープともしびボランティア振興財団 事務局長）
- 貫名 茜 （特定非営利活動法人 ホッピング 理事長）
- 東中 健悟 （近畿労働金庫 地域共生推進室 室長）

なお、応募団体の理事・監事に就いている審査委員は、その団体の審査からは外れることとしておりますが、該当する審査委員は存在しないことを確認しております。

2. 受賞団体の決定にあたって

2022年度の応募内容の特徴は、コロナ禍で顕在化した課題に対する活動や食支援、Zoomを活用した取組みが減少する一方、食支援をしながら居場所づくりや学習支援、フードバンク、相談、生活支援など複数の支援内容を組み合わせた取組みが増加しています。

また、「LGBTQ+」や「多胎児支援」「アルコール依存症家庭への支援」など、社会課題の捉え方へのアプローチ、独自性・先駆的なプログラムなど、内容の多様化を感じ取ることができました。

審査は、応募プログラムの「先進性」「創意工夫」「社会性」「実現性」「効果と発展性」「共感と市民参加」「資金計画の妥当性」「新規チャレンジ性」の項目に加えて、応募団体の「組織の継続性・運営体制・活動歴」や「市民主体性」の項目も基準とし、選考しまし

た。

「はばたきコース」では、多くの審査項目で高い評価を受けた団体の中から、先進性・社会性で高く評価した1団体を〈大賞〉に選出し、2団体に〈優秀賞〉、4団体に〈奨励賞〉、「はぐくみコース」では3団体を選定しました。（※各受賞団体の応募プログラムの内容や審査講評は、次ページ以降をご確認ください）

なお、受賞団体は今年度の応募状況を反映した幅広い分野からの選定となり、それ以外の団体についても、子育て支援に関する課題に対する取組みへの熱意は受賞団体に匹敵するものでした。

3. 今後の提言として

「近畿ろうきんNPOアワード」は、働く仲間の教育ローン利用が、子どもたちの未来と地域の子育て支援につながる仕組みをめざして、公募型の助成プログラムとして2006年度から実施され、これまで180団体に総額3,866万円の助成金をお届けしました。

応募プログラムは、いずれも社会的ニーズにもとづいた切実なものばかりで、「子育て支援」は勤労者にとって共通する社会課題であり、とりわけ、働く仲間の暮らしを支える「ろうきん運動」に相応しい事業であると考えています。

審査委員一同として、「近畿ろうきんNPOアワード」のような「組合員の、ろうきん利用をとおして地域の課題に対応するNPOを応援する事業」を継続いただくことを強く要請する次第です。

また、会員推進機構とともに事業を進める「ろうきん」として、各会員組合に対して、地域のNPOを応援するプログラムを数多く実践されていることを、より分かりやすく丁寧に伝えていただきますようお願いいたします。

※次頁以降の「団体の活動内容」および「応募プログラムの内容」は、応募団体からの申請書の内容にもとづき掲載しています。

～はばたきコース～

<大賞 1団体>

■ NPOフラット／助成額 50万円

フラット・ユース保健室

ユース向けの、フラットと寄れる、性・セクシュアリティに関する相談室の実施。自分らしくいられる場所の獲得、自分自身と大切な人を守るための力を身に付けるプログラム

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、共同代表3人のそれぞれの経験から、LGBTQ+や性・セクシュアリティに関する悩みを持つ若者への支援の必要性を感じ、10代～25歳くらいの若者を対象とした「ユース保健室」の開設をめざして設立。2022年9月より隔月でイベント型「ユース保健室」をスタートした。</p> <p>現在、それ以外の活動はまだ実施していないが、将来的にはユースの居場所としての食事提供や宿泊施設機能を持たせ、社会的養護ケアリーバーのサポートなどを実施するなど、活動の幅を広げることが検討している。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>10代～25歳くらいまでの若者を対象として、性・セクシュアリティに関する相談に応じ、ありのままの自分でいられる居場所を作る。</p> <p>必要に応じて、カウンセラーや医療機関、学校などとも連携して相談に対応する。対象はセクシュアルマイノリティへの悩みだけでなく、「性と生」に関する全般を扱い、避妊や性感染症予防、性的同意、関係性についての悩みなど、若者が気軽に寄って話せる場所（関係性）を作っていく。</p> <p>毎月1回のイベント型と、出張保健室を適宜実施し、体験談や性教育トーク、ボードゲームを通じた交流、講師を招いての性教育を行う。また、支援者向けの説明会や学習会など関係機関とも積極的に連携をはかる。相談にあたっては、メールやSNSを活用し、最初の一步を踏み出しやすい環境を整えていく。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、ハードルが高いと思われるであろう「性についての相談」を積極的に取り組んでいくものである。「ユースから見た日本の性教育の実態調査報告書」では、若者の約3分の1が学校での性教育を不十分だと感じており、ジェンダーやセクシュアリティ、人権などについても学びも求めているとの報告がある。特にジェンダーの多様性、LGBTQ+についても学びたい若者は、51.4%にもものぼっており、若者における社会的なニーズも高い。</p> <p>今回のプログラムを契機として、若者が自分の望む性やセクシュアリティで自分らしくいられる居場所の獲得や、自分自身と大切な人を守る力を身に付けることで当たり前権利として享受される社会をめざすとしており、先進性・社会性の観点から高く評価した。</p> <p>設立から2年に満たない団体ではあるが、現代社会における課題に正面から取り組んでおられ、さらなる活動の広がり期待し、大賞に選出した。</p>

<優秀賞 2団体>

- NPO法人CODE外災害援助市民センターCODE未来基金（兵庫）／助成額 30 万円
Little Teachers～ウクライナ避難民の子育て支援、学生と子どもの学び合い～
神戸に住むウクライナ避難民の子育て支援を、高校生・大学生が実施

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、市民や海外の災害被災地が互いに協力して、生活再建や復興を支援することを目的とした上で、これまで35の国と地域で62回の救援活動を行ってきた。</p> <p>当基金は、阪神・淡路大震災から20年の節目を迎えた2015年に、これまでの経験と教訓を次世代に継承することが求められていると考え、若者が様々な社会課題に仕事として取り組み、次世代の担い手となることができる仕組みを作り、仕事内容や価値をより深く知ることができる機会を創出することを目的に設立された。</p> <p>主な活動として、①長期インターンシップ、②若者が企画する海外でのフィールドワーク、などを行っており、現在では3人の学生インターンがCODEで活動している。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、戦争によって神戸市に避難してきているウクライナの方々の子守りを高校生・大学生が代わりに行う活動である。</p> <p>具体的には、学生が親の希望に合わせて、子どもと一緒にご飯を食べたり、勉強したり、公園で遊んだりしている間、自由時間や仕事等に活用いただく。学生が参加することで、ウクライナ避難民の方が神戸にいるという事実や、その周りの社会問題に関心を持ってもらうだけでなく、自分自身が親になった時について考える機会として捉えることで、ウクライナの子どもたちやそれに関わる学生の成長をめざす。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、ロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻により、神戸市内で約100人のウクライナの方々が避難生活を余儀なくされている実態を踏まえた取り組みである。</p> <p>ウクライナでは男性が国外に出られず、避難民は女性と子どもが多い中、学生が避難民の方々との交流を通じて感じた「ウクライナ避難民の母親の課題」を的確にとらえたプログラムであり、実現性・継続性の観点から高く評価した。</p> <p>ロシア軍によるウクライナ侵攻は、収束が見えない状況であり、今後継続した支援が必要となる。本プログラムが今後も継続実施されることを期待したい。</p>

■ ひょうご多胎ネット（兵庫）／助成額 30 万円

ひょうごふたご・みつごおしゃべり広場

兵庫県下の、妊娠期を含む多胎家庭や支援者がオンラインで情報交換と交流する機会を提供

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、専門職などと連携し、多胎家庭への啓発、情報発信、ピアサポート活動などの支援を行い、安心して多胎児を産み育てる育児環境を作るために設立した。多胎児の妊娠・出産・育児は、母子の生命や家族関係に大きな影響を及ぼすほどハイリスクであるが、妊娠期からの早期介入でそのリスクが軽減されることから、以下の取組みを実施している。</p> <p>①おしゃべり広場（年 12 回） ②オンラインファミリー教室（年 4 回）</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、兵庫県在住、里帰り中の多胎妊産婦、多胎児を育児中の方とその家族、および支援者・看護系学生など、多胎家庭・多胎育児に関心のある方を対象とし、オンラインを活用しながら毎月 1 回（5～10 家庭、支援者など 2～3 人）、交流会を開催するものである。</p> <p>オンラインの活用により、遠方地域からの参加も可能となること、時間内の入退室は自由とするなど、各家庭の事情に合わせた開催とすることで、気軽に参加できる場をつくり、普段出会えない仲間と妊娠・育児・出産の不安や困りごとについて、意見交換しながら交流を深め、多胎家庭の孤立を防ぐ。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、オンラインを活用しつつも顔の見える環境で、同じように多胎児を持つ家庭や多数の支援者に会うことで、「自分だけではない」と思える機会を創出している。また、多胎児特有の悩みや思いを共有・共感し、当事者、ピアサポーター、支援者などから解決方法を提供することで、育児ストレスが軽減され、子どもの虐待防止にも寄与している。さらにオンラインの特性を生かし、外に出ることの大変さをカバーできること、他地域の支援制度を知ることで別の地域での支援制度が創出されることも期待できるなど、社会性・実現性の観点から高く評価した。</p> <p>ふたご・みつご家庭は全育児家庭の約 1%に過ぎず、地域で仲間に出会うことは稀である。この取組みを兵庫県主体の事業として実施できるよう、今後申入れも予定されており、さらなる取組みの充実に期待したい。</p>

<奨励賞 4団体>

■ フリースペース S-BASE (兵庫) /助成額 20万円

農業から社会に飛び出そう！

生産から販売までを経験する社会プログラムを実施

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は兵庫県三木市を拠点に、子どもたちの心身の健康と教育の機会を得ることを目的に、不登校、引きこもりの子どもたちを対象としたフリースクール事業を行っている。具体的な内容は以下の通り。</p> <p>①フリースペースS-BASEの運営 学習サポート、運動、料理、木工、陶芸、習字などの体験教室、釣りなどの校外学習を実施。</p> <p>②親の会「おやBASE」とお母さんのための教室の運営 保護者対象の座談相談会や母親対象の編み物、多肉鉢植えなどの教室を開催し保護者がリフレッシュできる機会を設ける。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、学校に行きづらい子どもたちが、農業を通じて社会に出ていくことを想像できる社会体験プログラムを実施するものであり、具体的には、農作物の播種から収穫、消費者への販売までを子どもたちが行うこととしている。</p> <p>子どもたち自らのアイデアで実施することで、仕事への興味、社会に出るための経験を得ることができること、また、販売までを経験することで、コミュニケーション能力の向上とお金の流れを学ぶことができ、自らが社会に必要な存在であること、自己肯定感を高めること、社会的自立につながることを期待できる。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、フリースクールにたどり着いた子どもの「自己肯定感の低さ」「罪悪感」を払拭するために、農作業を軸とした学びの場を提供するものである。</p> <p>農作業の過程で考えなければならない多様な要素（天候・土壌環境・食物連鎖など）から、育てることの大変さや困難に向き合うことで、子どもたちが社会に出て、生きていくうえで立ち向かうべき力を養うことができ、社会的自立につながる取り組みであることから、創意工夫、社会性の観点から高く評価した。</p> <p>本プログラムは、職業・社会体験プログラムを実施するベースとなる事業として期待できる内容であり、今後のさらなる活動に期待したい。</p>

■ てんり高原マルシェ実行委員会（奈良）／助成額 20 万円

手で触れる 心で触れる 「大地と繋がり、いのちを育む」食育ワークショップ

心と身体を育み、大地や人から「生きる力」を学ぶプログラムの実施

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、少子化が進む地域課題に直面し、地域活性化に取り組む団体が実行委員会を立ち上げ、天理市の高原地域で旧小学校の木造校舎を再生した趣のある建物を会場として、毎月1回活動を続けている団体である。美味しい・楽しいだけのマルシェではなく、多世代のつながりを大事にしながら、孤独になりやすい親子が安心して過ごせる場所づくり、住みたくなるような街づくりをめざしている。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、農的暮らしが今も感じられる里山で、「食」をテーマとした以下の3つの体験ワークショップなどをおして、心と身体を育み、大地や人から「生きる力」を学ぶ。</p> <p>①アースオープンづくり（6・7・8・9・10月…年5回） ②エディブルスクールヤード（5・8月…年2回） ③かき餅づくり（12月）</p> <p>※その他、親子上映会を11月に実施</p> <p>食べ物をおして、作ってくれた人、食材を育んだ自然・環境を思い、つながりを感じるにより、自分は世界とつながり影響を与え合っていることを感じることで、大きな循環の中に自分の尊い命を感じることで、行動できる人間性も育まれる。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、昔から紡いできた相互扶助の文化が残っている中山間部の山里で、地域の人や豊かな自然との関わりから、多様なものを分かち合いながら生きていく文化を肌で感じ、後世に繋いでいくことをめざしており、創意工夫・実現性の観点から高く評価した。</p> <p>今後、エディブルガーデンを森のようちえんの園児と地域の方とともに育みながら継続活用すること、アースオープンを囲み、食を真ん中にしたコミュニティスペースを育む取組みが計画されており、地域課題の解決に向けた活動に期待したい。</p>

■ パレット（兵庫）／助成額 20 万円

でこぼこパーク&ここぷれ

障がいなどの困りごと体験を通して相互理解を深めるイベントの運営と、不登校児童などのこどもの居場所やチャレンジのきっかけ作り

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、発達障がいや性的マイノリティなど、見えづらい困りごとを抱えた子どもたちやその家族の課題を、参加型イベントや各種サービスの提供により解決し、芦屋市、ひいては日本各地へ多様な特性を持つ子どもたちの元気・笑顔を増やしていくことをめざし、設立した。</p> <p>インクルーシブイベント「でこぼこ」や、子どもたちの「安全基地」をめざす「ここぷれ」という居場所の提供を通じ、主に発達障がいの特性を持つ子どもたちの支援を実施している。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、「でこぼこパーク」と「ここぷれ」の2つを実施する。具体的内容は以下の通り。</p> <p>①でこぼこパーク（対象…健常者、障がいの双方）</p> <p>高齢者、妊婦、車いす、視野狭窄など、身体が不自由な方の感覚を体験してもらうブースや、ボッチャ・ゴールボールなど、身体障がいをもつ人たちのスポーツを実践するブースを設置・運営し、参加者に楽しんでもらいながら気づきを得てもらうきっかけとする。</p> <p>②ここぷれ（対象…発達障がいやそれに伴う様々な特性を持つ子どもたちとその家族）</p> <p>子どもたちに自由に、安心して過ごしてもらえる「安全基地」で、工作や調理手芸などの様々なメニューを提供する。</p> <p>プログラムの目的は、“多様性”、“発達障がい”、“共生社会”といった言葉を本当の意味で理解し、これらの課題にうまく対処できているのだろうか、という問題意識から、自らも含め社会における現状認識の甘さ、対応の不十分さに向き合い、何かの行動に移すこととしている。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムでは、あえて“障がい者”というワードを全面に出さず、イベントを通じて不便さを実感することで相互理解・気づきのきっかけとすること、子どもの意外性を引き出すことを狙いとしており、多様性や共生を意識した視点について評価した。</p> <p>今後、ここぷれは開催場所を2か所、日数を増やすことで利用しやすい環境を整備すること、でこぼこパークは「でこぼこキャラバン事業」として、各地方・地域との団体と協力して、全国的なイベント開催も計画されており、活動の輪を広げていくことに期待したい。</p>

■ 細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会（大阪）／助成額 20 万円

2023 知ることによって守れるこどものいのちと笑顔

疾患を予防する重要性と情報を正しく知る機会の提供

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、患者家族、医療従事者、一般支援者で構成され、他患者会、医療団体、子育て支援団体と協働し、細菌性髄膜炎をはじめとする様々なVPD（ワクチンで防げる病気）や母子感染症の啓発を目的に取り組んできた。日常的には以下の活動を実施している。</p> <p>①メールやSNSを活用した患者家族の交流 ②学会への出展、ポスター展示 ③各種イベントへの出展啓発</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、「知ることによって子どもたちのいのちや笑顔を守る」をテーマに、多くの人々に疾患を予防する重要性と感染症から子どもたちを守る情報を正しく知っていただく機会とし、子どもたちの笑顔を守ることで、だれもが夢や希望を持ち暮らしていける社会であることを発信する。えんとつ町のペペルのパネル展示を病院や福祉事業所に届けるグループとコラボしたイベントを企画する。</p> <p>開催方式は、ウィズコロナ時代のイベントとして、会場でもオンラインでも情報を受け取れるハイブリッド形式とし、子育て世代に有用な情報を楽しみながら学べる機会とする。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、世界髄膜炎組織連合が髄膜炎に対する認知向上と予防接種の普及をめざし位置づけた「世界髄膜炎デー（毎年4月24日）」に呼応したイベントである。</p> <p>今回はVPDから子どもたちのいのちを守ることをより多くの方に知っていただくため、患者会、医療団体、子育て支援団体と協働し、行政からも後援名義使用許可を取るなど、プログラムの開催で子どもたちを守る輪をさらに広げていくことをめざしている。また、プロジェクトは2010年より継続して実施されており、実現性の観点から高く評価した。</p> <p>取組みを通じて、参加団体・連携団体も増え、参加者層も広がっており、今後継続した取組みに期待したい。</p>

～はぐくみコース～<はぐくみ賞 3 団体>

■ フリースクール つくるがっこう イホルラ舎（和歌山）／助成額 10 万円

大学生と取り組む不登校ヒミツ基地づくり

フリースクールによる、屋外造形活動を中心とした不登校の子どもの居場所づくりを実施

<p>団体の活動 内容</p>	<p>主に不登校の子どもの対象にしたフリースクールを運営。安心して過ごせる居場所、個人を尊重した学習環境を提供している。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、近隣の不登校の小中学生と当フリースクールのメンバーを対象に、スクール敷地内で学生ボランティアとともに、子どもの憧れ「秘密基地」を製作するものである。</p> <p>大学生ボランティアが楽しく製作に取り組み、小中学生が面白がって参加するという雰囲気をめざす。汗をかき、仲間と協力しながら自分たちの城を自分たちの手で作ることによるかけがえのない体験を通じ、自己肯定感を高めていく。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、不登校の子を抱える家庭の孤立を防ぎ、様々な家庭環境の子どもたちが地域の中で安心して健やかに成長できる社会づくりに寄与するものであり、創意工夫・社会性・実現性・新規チャレンジ性の観点で評価した。</p> <p>今後、団体がめざしている「第3の居場所」「不登校家庭の相談機関」として機能することを期待したい。</p>

■ NPO法人寺子屋ひゅっげ（大阪）／助成額 10 万円

こどものてらこや

地域の子どもたちが様々な体験ができるミニ講座・ワークショップを開催し、その後お寺を開放し、自由に過ごせる場所を提供

<p>内容 団体の活動</p>	<p>当団体は「寺」という社会資源を活用し、「安心して暮らしたい」という人として当たり前の欲求を満たすため、以下の取組みを実施している。</p> <p>①ワークショップ 地域の子どもや住民が、ものづくり、アート、音楽などを体験できる機会を提供。</p> <p>②講演会 子ども支援、心理的支援、地域福祉をテーマに、心理、福祉、教育現場の専門職員や、保護者などが現場や日常で活かせるスキルや知識を学ぶ機会を提供。</p> <p>③子どもの居場所 学校や家庭以外のサードプレイスが必要な子どもが過ごせる場の提供。</p> <p>④カウンセリング・心理検査</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、長期休み期間中に地域の子どもたちが様々な体験ができるミニ講座・ワークショップを開催し、その後お寺を開放し、自由に過ごせる場を提供するものである。具体的内容は以下の通り。</p> <p>①夏休み…自由研究（工作・実験）、お笑い喜劇講座 ②冬休み…書初め、書道アート&パステルアート ③春休み…彫刻アート、リズムワークショップ</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、社会環境・家庭環境の変化により、①長期休み期間中や放課後など、学校・家庭以外に安心して過ごせる場所を必要とする子どもが増えていること、②不登校状態にある子どもたちの居場所が不足していること、への問題意識から企画されたものであり、社会性・実現性・効果と発展性、の観点で評価した。</p> <p>カウンセリングや心理検査、教育相談等も実施されており、本事業を含め、継続的に実施されることに期待したい。</p>

■ 一般社団法人ひらく（奈良）／助成額 10 万円

足音プロジェクト

人生の先輩の話を学生が聞いて、その方の「自分史」を一冊の本にまとめるプロジェクト

<p>団体の活動 内容</p>	<p>当団体は、進路がなかなか見出せない学生を対象に、地域の中で職業人に出会う機会や実際に職業体験をし、リアルな現場で自分の向き不向きを感じる機会の提供を主軸とした伴走事業を実施している。また、地域のシニア世代や子ども、障がいのある人との交流も含め、学校では学べない社会性や適応能力、これからの時代に必要な多様な人との関わりを、農業や竹林整備などを通じて学べる場づくりを行っている。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本プログラムは、地域のおじいちゃん、おばあちゃんにスポットをあて、自分史という冊子を作るものである。</p> <p>具体的には、学生たちが、その方々の生まれた時から今までの人生を振り返り、思い出話などに花を咲かせながら、穏やかな交流時間をつくり、聞いた話をまとめて自分史の冊子を作製する。そして、ご本人の記録、ご子息、未来の子孫に自分たちの生きた証として残したくなる本づくりをめざす。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本プログラムは、一般の何の肩書もない方にスポットを当てた「自分史」を作るもので、高齢の独居生活の方とコミュニケーションが苦手な子どもが、共に社会で交流することの喜びを感じることができる学びのを提供するものであり、創意工夫の観点から評価した。</p> <p>本プログラムで高齢者の認知症予防や、不登校気味の学生、体調不良で家にいることもたちの仕事体験として、希望がわく関わりづくりに期待したい。</p>